



**研究者総覧：布施 哲 (FUSE, Satoshi)**

氏名	布施 哲 (FUSE, Satoshi)	
職名	准教授	
所属講座	国際多元文化専先端文化論講座	
学位（専攻分野）	Ph.D（政治学）・ Univ. of Essex	
メールアドレス	<a href="mailto:fuse@lang.nagoya-u.ac.jp">fuse@lang.nagoya-u.ac.jp</a>	
個人のホームページ	<a href="http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~fuse/">http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~fuse/</a>	
研究分野	政治学	
	政治哲学	
	思想史	
現在の研究テーマ	資本主義社会論	
所属学会	日本ラカン協会	
	日本政治思想史学会	
主要著書・論文	『希望の政治学——テロルか偽善か』（角川学芸、2008）	
	「資本化と政治的威信」（『思想』2011.5）	
	「シュンペーターの終末論」（『思想』2010.2）	
	「イロニーとしての日本」（『メディアと文化』2008.2）	
	「脱理念化された民主主義のための政治理論——ラクラウ＝ジジェク論争についての覚書」（『情況』2007.5）	
自己紹介文	<p>擬制論/フィクション論を政治理論のなかにいかに組み込んでゆくことができるかに関する研究、ならびに、資本主義システム化のイデオロギー分析が当面の目標になるでしょう。ただしそれはいずれも、精神分析の諸理論から記号論、くわえて思想史研究の要素をも相当程度含みこまなければならない、相応の時間がかかりそうです。また、ゆくゆくは、上述した自身の擬制論を応用することで、歴史上、とりわけ日本の歴史におけるさまざまな社会変動や政治現象を分析したり再解釈したりすることができればと思っています。自身の能力の限界も省みない遠大な計画ですが、とりあえずはやれるところまでやってゆきたいと思っています。なお、こうした自己紹介文では、プライベートな情報も何か書くべきなの</p>	 <p>近著（角川学芸出版、2008）</p>

	<p>でしょうが、あいにく、私は特筆すべきところなど何ひとつとしてない凡庸な人間です。あえていえば、パソコンの機械いじりや音楽に興味のある人とは、ウマが合いそうです。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>次に該当される方のうち、本学での学位取得にご関心がおありの方は、お気軽にご連絡くださればと思います：①政治学に哲学や精神分析の諸理論を援用することで、現代社会の分析をしてみたい②私たちの日常的生活様式全般に対して、そこはかたない違和感をおぼえている③学問にアクチュアリティを求めている——この3点です。大学院レベルでの学問には、もちろん“オーソドキシ”や“ディシプリン”といったものはありますが、それらを一定程度踏まえただけで、他方、そうした学問的オーソドキシを鼻で笑えるような態度も必要とされているように思われます。つまり、ウィットやユーモアをもって、難解な議論に臨める精神的な柔軟性であり、言い換えれば、学問的な厳密さと、厳密さゆえの自閉性・自己完結性から暴力的かつ自在に自身の精神を引き離すことができるような跳躍力。そうした跳躍力こそが、それのみが、真に知性の名に値するものであると私は信じています。</p> <div data-bbox="1029 465 1236 772" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1069 824 1204 846" data-label="Caption"> <p>Paul Klee, un ange, 1925</p> </div> <div data-bbox="986 880 1305 907" data-label="Caption"> <p>パウル・クレイ、未熟な天使</p> </div>